



第 71 号

令和5年7月1日

ふすま同窓会本部



会長就任のあいさつ

ふすま同窓会 会長 高 橋 節 (人文2回)

会員の皆様には、お元気でお過ごしのことと思います。この度、同窓会会長を拝命した高橋節です。よろしく願います。

山形ではコロナに関する話題が少なくなり、名産さくらんぼ狩りを目玉にした観光地等をめぐる旅行者が見受けられる何時もの初夏を迎えております。特に今年は、さくらんぼの新品種「やまがた紅王（500円玉超の大きさ）」の本格的販売開始とあって市場も活況を呈しているようです。

さて、「ふすま同窓会百年記念祭」では実行委員長を仰せつかり、会員の皆様からの協力の下で、様々な記念事業を盛り込んだ計画づくり、資金確保のための募金活動等の展開に取り組みしました。コロナウイルス感染防止対策を睨みながらの対応を余儀なくされ、この結果、開催時期（2020年10月）を1年延期、県内在住会員に限定した記念式典のみの開催に絞り込まざるを得ませんでした。これからの同窓会活動のキックオフとなるような記念祭にしようと思案をめぐらせていただけない、会員の皆様から寄せられた期待にも応えられず忸怩たる思いでございました。

一方で、私達を取り巻く社会環境は、少子高齢社会の更なる進展、不透明な経済環境など混迷、変革の度合いを深めております。会員数の着実な増加をみている当会にあっても、活動への参加者の減少など様々な課題の解決は避けて通れないものになっています。こうした中での記念祭に向けた取組は、組織として「伝統を紡ぎ未来に続いていく」ことの必要性を改めて確認することに繋がったのではないかと考えています。

3年余りにも及ぶ様々な対策期間を経て漸くコロナ禍も癒えつつあります。会の諸行事も対面形式で実行できるなどこれまでの日常に戻りつつある一方で、一部は、確実に新しい社会生活として定着していくものもあるようです。こうした環境下で、皆様からの協力を頂きながら、課題である同窓会活動への会員参加の増加、とりわけ若手会員のとの交流の促進など、今後の運営をどのように進めて行くか皆様のお考えをお聞きしながら進めていきたいと思ひます。忌憚のないご意見をお寄せください。

開 催 予 告

令和5年度 ふすまの日・ふすまの夕べ

日 時 令和5年 10月20日(金) 18:00～
会 場 ホテルメトロポリタン山形(山形市香澄町一丁目)
023-641-2611

※各理事経由でパーティー券購入方式

令和6(2024)年度 ふすま同窓会総会予告

－期日(予定)－
令和6年5月25日(土)

－場 所－
ホテルメトロポリタン山形
(山形市香澄町一丁目)

◆◆今回の会報は、学生会員から2ページ作成していただきました。多くの若い会員も楽しめる会報にしていきたいと考えております。◆◆

令和5年度 ふすま同窓会総会報告

1 概要

令和5年5月20日(土)、ホテルメトロポリタン山形において令和5年度ふすま同窓会総会が開催されました。

総会では、野村一芳会長(人文1回)が議長に選出され議事が進められました。最初に、事務局より令和4年度事業報告及び決算報告が、齋藤知行監事(文理15回)より監査報告が行われ、いずれも報告のとおり承認されました。続いて、事務局より令和5年度事業計画(案)及び予算(案)が説明され、いずれも案のとおり決定されました。また、令和5年度が役員改選の年にあたることから、役員改選が議事に供されました。議長が役員改選の進め方を語ったところ、事務局一任の声があり、事務局より役員改選(案)が示され、全員、案のとおり決定されました。その後、事務局が令和6年度の総会日程を説明、最後に野村会長が退任の挨拶を行い、総会を終了しました。(総会出席者数46名)

総会終了後、野村前会長に高橋節新会長(人文2回)から感謝状が贈呈されるとともに、野村前会長の顧問就任が決定されました。また、新型コロナウイルスの5類感染症移行を受け、山形大学の玉手英利学長、是川晴彦人文社会科学部長、並河英紀理学部長等をお招きし、3年ぶりに懇親会が開催されました。(懇親会出席48名)

2 令和4年度事業報告

- 4月23日(土) 常任理事会(東部公民館)
- 5月18日(水) 支部長会議(オンライン)
- 21日(土) ふすま同窓会総会(ホテルメトロポリタン山形)
- 7月1日(金) ふすま同窓会報(第70号)発行
- 4日(月) ふすま同窓会館改修工事着工
- 8月22日(月) ふすま同窓会館改修工事完成・引き渡し
- 9月5日(月) ティーデマン・ふすま賞選考委員会
- 10日(土) ティーデマン碑供養祭(山寺立石寺)
- 24日(土) ふすま同窓会館改修お披露目会

- 10月21日(金) ふすまの日・ふすまの夕べ
(ホテルメトロポリタン山形)
- 22日(土) ティーデマン・ふすま賞授賞式
- 11月6日(日) 第12回安達峰一郎記念世界平和弁論大会
協賛(山形大学)
- 12月9日(金)～10日(土)
第50回模擬裁判支援(山形テルサ)
- 1月1日(日) ふすま通信(第12号)発行
- 14日(土) 賀詞交歓会(ふすま同窓会館)

3 令和4年度決算報告

令和4年度収支決算書(18頁)のとおり

4 令和5年度事業計画

- 4月22日(土) 常任理事会
- 5月19日(金) 支部長会議
- 20日(土) ふすま同窓会総会
- 7月1日(土) ふすま同窓会報(第71号)発行
- 15日(土) 納涼会
- 8月25日(金) ティーデマン・ふすま賞選考委員会
- 9月9日(土) ティーデマン碑供養祭
- 10月20日(金) ふすまの日・ふすまの夕べ
- 21日(土) ティーデマン・ふすま賞授賞式
- 11月12日(日) 第13回安達峰一郎記念世界平和弁論大会協賛
- 12月1日(金)～2日(土) 第51回模擬裁判支援
- 1月1日(月) ふすま通信(13号)発行
- 13日(土) 賀詞交歓会

5 令和5年度予算

令和5年度予算書(18頁)のとおり

6 令和5・6年度の同窓会役員

同窓会役員一覧(19頁)のとおり

小林正宣(人文7回)



退任に当たって

ふすま同窓会第14代会長 野村 一 芳 (人文1回)

この度、ふすま同窓会会長を退任致しました。平成28年に前任の長沼龍平会長を引継ぎ、7年にわたり会長を務めさせて頂きました。これも偏に会員の皆様始め支えて頂きました役員の皆様のご指導ご協力の賜物であり心から感謝申し上げます。

高橋節新会長への会員の皆様の一層のご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

私が就任した時期は、同窓会にとって大きな節目となる百年記念祭を控え、山形大学に於いては人文学部が新たに人文社会科学部となり、理学部と共にこれまでの学科制から1学科のコース制に改組され、学生定数も人文社会科学部が290名、理学部は210名となり全体では15名増の500名となるなど、新学部生としての同窓会入会や学生会員増など大きな変化がありました。



全国の会員の皆さんが待ち望んでいた百年記念祭については、高橋節実行委員長の下、万全の態勢で準備を進めましたが、思いもかけずコロナパンデミックが起こり全国に緊急事態宣言が発せられ東京オリンピックも延期となりました。百年記念祭は「記念誌の発刊」や「ふすま100年の碑」「ふすまりフレッシュルーム」の設置など記念事業については極力実行できたものの、多くの同窓会員の皆様が心待ちしていた懇親会は行えず式典のみで皆様に失望させる結果となり申し訳なく、会長として携わった中で最も残念なことであります。

ふすま同窓会は、全国で唯一の旧制高等学校と大学の同窓生が集う同窓会で、「ふすま」の文字と校章は、山形高等学校の伝統を引継ぎ、同窓会の名称会章になっています。キャンパス内には、山高と山大を繋ぐふすまの碑があり、同窓会館には、山形高等学校の貴重な資料が保管されています。「ティーデマン碑供養祭」、「ティーデマン・ふすま賞」もふすまの歴史を実感する大切な事業です。山高のドイツ語教師ティーデマン先生と山高生との深い絆により、山寺に建立された碑とそれを契機に設立された「ふすま賞」です。コロナ以前は、山形と仙台の会員有志による碑供養祭

の後芋煮会を行っていました。先輩後輩が集い楽しい交流会です。

同窓会への参加は、山形高等学校の同窓生は少なく、山大の同窓生が殆どとなりました。参加者が多かった文理学部の同窓生も75歳を超えており、人文理学部以降の若い会員の参加は少なく高齢化してきています。社会の変化は著しく退職年齢は65歳まで延長され70歳まで働く方も少なくないなど、同窓会に大きな影響を及ぼしています。また、会員相互の連携と親睦の場である懇親会は同窓会の原点ではありますが、コロナを経て懇親会の形も変わってきています。これまで歌い繋いできた寮歌は、同窓生の心を繋いできましたが、若い会員には馴染みが薄く寮歌を歌える世代も少なくなりました。寮歌を歌った学寮がキャンパス内に在ったのは山形高等学校時代・文理学部時代と人文学部理学部の1年目迄で、その後半世紀が経過しており若い方々が寮歌に馴染みのないのは当然であります。先輩方は、寮歌祭を開催するなど「寮歌不滅」を掲げてきました。今日の状況を愁い、寮歌を歌い継ぐべく提言なども寄せられております。百年記念祭でも寮歌祭の開催の提案もありましたし、有志による歌う会を開催したこともありました。同窓会では会合の都度寮歌集を配布し「嗚呼乾坤」「ひかり北地に」と学生歌「みどり樹に」を歌ってきましたが、年々歌える会員が少なくなっています。これからは、若い世代の意見を聞きながら心をついに皆が集って歌う歌として工夫していく必要があると思います。また、学生会員への教育研究活動・サークル活動などへの支援は、学生時代から同窓会に対する認識を持たせることにも繋がっています。学生の皆さんも同窓会を訪ねてくれます。学生のイベントに参加して学生と話せることは我々にとっても嬉しい事です。これからは、他の同窓会や校友会とも協力し同窓会が若い世代へと繋がっていくことを願っています。また、嘗ては全国に17支部がありましたが、現在は6支部のみとなっております。以前のように、全国に同窓生が集える場ができることを願っています。

厳しい状況ではありますが、高橋新会長の新しい時代へのかじ取りに期待しております。会長として、何も出来ず忸怩たる思いですが、これからは一会員として協力してまいります。

ふすま同窓会の今後益々の発展と会員の皆様のご健勝並びに母校山形大学のご隆盛をご祈念申し上げご挨拶と致します。

西の国から

関西支部



今年のふすま会同窓会関西支部総会は2023年1月22日(日)、3年続きでオンライン方式で開催いたしました。

感染症専門家による、この冬はコロナとインフルエンザの同時流行が予想されるとの意見に基づいて、3人の幹事で相談した結果です。今回もプロMC塚原繁美さんのおかげで、関西支部ならではのアットホームな会になったと自負しております。

関西ふすま会モットーは「誰もが得意技を活かし、若人を主役にする場に」です。

総勢15名の参加でした。

山形から参加の現役学生51代模擬裁判実行委員会丸田 蒼委員長、フリーペーパーサークルYai ! 平はな委員長の発言は、初々しくかつしっかりしていて、私の学生時代を思い返すと母校の未来は明るいと感じたのは出席者の中で私だけでしょうか、校友会樋口事務局長の「2022年の山形大学の今」の記録と相まって。

私個人としてはもう6年前に手術して完治したと思っていた前立腺がんが、再発の恐れありとして今も治療を受けています。それだけに医学部の重粒子線治療のnewsは朗報でした。これからの感染者は私が経験した全身麻酔による苦しい経験がなくて済むでしょう。

米沢工業会関西支部総会はFace to faceとOn lineとのハイブリッド方式で行ったこと、前支部長方針で会費は活きた使い方をしようとの発言などいつも参考になっています。

鶴窓会関西支部からは何とか復活したいとの発言に、ふすま会関西支部も同様な状態であっただけに工業会と協力して応えて行きたいと思います。

里村義征（文理法律14回）

北陸の地より

北陸支部

新型コロナの影響で社会全般が委縮してしまった。ふすま同窓会本部や支部においてもその影響は多大であった。しかし3年経過した今、コロナの活動もようやく下火となり明るい兆しが見えてきた。北陸支部でも何とか令和4年度中には同窓会を開催できる期待をもっていた。北陸支部長の松田博男氏（文理18回）も会員名簿の整理に余念がなかった。

全会員にアンケート用紙を配布し、次のような結果が得られた。会員数33名、返信数9名（内、出席予定者3名）であった。残念ながら人数は少なく昨年の開催は見送った。集まった3人（金沢市在住の松田氏、松岡氏〈文理16回〉および富山県在住の蓮井〈文理16回〉）で市内観光がてら、今後のふすま会北陸支部をどのような形で行っていくのか話し合った。出席が少なかったのはまだコロナの感染を懸念したからだろう。また、もとのように同窓会がひらけることを今後に期待したい。歩いて観光するのも交流が深まってよいものだ。



最初に金沢箔座本店を見学することになった。史的背景やその絢爛豪華さに目を見張った。天井や床はすべて金箔で、まばゆいほどであった。

秀吉が作ったといわれる茶室も巨万の富を費やしてつくられ、その権勢をほしいまにした。次に行った国立工芸館もめずらしく貴重なものが陳列されていた。名ガイドぶりを発揮してくれた松岡氏には感謝であった。今回、交流の意味も同窓会を通じて深まることを理解したのだ。

ところが、5月5日こどもの日に発生した巨大地震も改めて人の弱さを露呈した。道には数トンもある巨石が散乱していた。震度6.3強というのはじめての経験。ここではまるで人は蟻のように右往左往していた。

よく考えてみるとその根本は絆にうらづけられたものが人との絆をふかめたのだった。家屋は半壊または全壊したけれども心まではおれなかった。励ましあいや助け合うことが人間の生きる道だといっているようで尊敬の念がわいてきた。

蓮井信吉（文理16回）

東京ふすま会活動報告

東京ふすま会

令和4年度活動報告

今年度はコロナの影響も少なくなり、リアルの行事を3年振り4年振りで開催できた。

1. 第1回常任理事会

参加者16名

4月23日 会場：駒八慶応中通り店

総会付議事項の他、会員増加について議論した。

2. 総会・理事会



参加者38名

5月28日 会場：学士会館

役員改選で、三俣壯一氏(文理16)が勇退し、笹谷仁則氏(人文1)が第14代会長に就任した。

◎記念講演 佐藤 夏雄氏(理1)

「困難を乗り越え始動した日本の南極観測」

大正7年生まれで7月に104歳を迎える南極観測隊の大先輩村内必典氏(16理甲)が記念講演講師の激励に訪れ盛会であった。

3. 第33回見学会

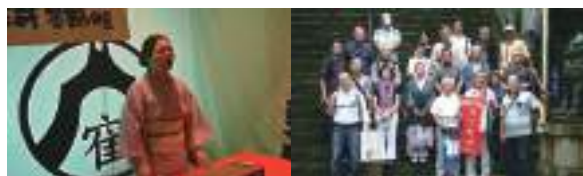
参加者31名

9月24日「秋の歴史散歩～芝・愛宕山編～」

女流講師：宝井琴鶴師匠(人文34回)のガイドによる秋の歴史散歩・講談・懇親会の三部構成で4年振りに見学会を開催した。

〈見学コース〉 愛宕神社⇒NHK放送博物館⇒増上寺・芝公園

〈講談〉寛永三馬術出世の石段(曲垣平九郎)



4. 第13回懇親芋煮会

会場：若洲海浜公園キャンプ場

1回目 10月29日 参加者14名

2回目 11月19日 参加者16名

キャンプ場の人数制限があり、10月と11月に予約がとれ2回開催した。



第1回10月



第2回11月

5. 第2回常任理事会

参加者17名

12月23日 会場：駒八ムスブ総本店

議題：上半期事業執行状況及び下期事業計画会員増加・事務所の有効活用等について議論した。

6. 新年懇親会

参加者33名

1月28日 会場：日本教育会館喜山倶楽部

3年振りに新年の行事を開催した。

◎新春トーク

津森 幸枝氏(文理12)

「ボランティア活動への道」

五十嵐吉郎氏(理1)

「海外勢との激戦を生き抜いたデータベースソフト桐」

7. 会報「乾坤」

稲村英夫広報部会長(文理16)を編集長に東京ふすま会の機関誌として、16頁立てで年3回発行した。

8. 校友会関連

令和5年3月4日開催の首都圏ネットワーク総会・同窓生セミナー参加者68名のうち20名が東京ふすま会員であった。

笹谷会長の活動報告の中で東京ふすま会最年少会員である落語家立川志らびー氏(人文45)の活躍を紹介した。

令和5年度行事予定

令和5年

4月22日(土) 第1回常任理事会 高円寺事務所

5月9日(火) 監査 高円寺事務所

5月27日(土) 理事会及び総会 学士会館

8月1日(火) 乾坤156号発行

9月中旬 第34回見学会

10月or11月 第14回懇親芋煮会

11月下旬 第2回常任理事会

12月1日(金) 乾坤157号発行

令和6年

1月27日(土) 新年懇親会

3月31日(日) 乾坤158号発行

事業部会長 齋藤 彰(理18回)

新型コロナ禍を乗り越えて…

山形支部

山形県内の新型コロナウイルス感染者数は、令和5年に入り、4桁の数字が多かった前の年から3桁の数字が多くなってきて少しずつ緩和され、さらに、この新年度になってからは、2ケタの数字が多くなってきている。そして、5月8日(月)からは、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられている。

このような中、5月20日(土)ホテルメトロポリタン山形において、本部総会に引き続き、令和5年度の支部総会が開催された。

議事の中での、4年度事業報告について2、3記しておく。

【談話会（小旅行）】

コロナ禍の感染拡大防止の観点から、年3回開催してきた支部事業の目玉である談話会が、令和2年度、3年度の2年間一度も開催できなかったため、令和4年度は本当に久しぶり(!)の集まりで行われた。



第1回：令和4年6月10日(金)に20名の参加を得て、マイクロバスでの小旅行となった。中山町の「旧柏倉家住宅」見学と寒河江市の「国史跡慈恩寺」参拝・見学と「高瀬山古墳」の見学を行った。

この中の「国史跡慈恩寺」については、特にふすま通信第12号(令和5年1月発行)に詳しく載っているの、ご覧いただきたい。



第2回：11月11日(金)に同窓会館で、理学部副学部長の金井塚勝彦氏から、「分子積み木と総合知研究戦略」について講義をいただき、引き続き短時間ではあったが、講師を囲んで久しぶりの懇親を図った。

第3回：令和5年2月3日(金)に同じく同窓会館で、寒河江市教育委員会勤務の大宮富善氏(人文9回)から、「寒河江（最上）家親文書を読む」の講話をいただき、その後で、恵方巻を食べながら懇親を深めた。

【山形・仙台支部交流いも煮会】



令和4年9月10日(土)に、本部主催による山寺でのティーデモン碑供養祭が行われた。その後の仙台支部との交流いも煮会については、コロナ禍を避けて残念ながら中止となった。

5年度からの、両支部の更なる交流を大いに期待するところである。

【ふすまの日・ふすまの夕べ】

「ふすまの日・ふすまの夕べ」については、令和4年10月21日(金)に「ホテルメトロポリタン山形」で開催された。

コロナ禍に気を付けながらの50名の参加者であったが、3年ぶりの開催であり、再会を喜び合った。

5年度からは、コロナ禍前の賑やかさを取り戻して百年祭で飲めなかった全国の仲間と、大いに親睦を深めたいと思っている。



なお、先の支部総会で、奥山隆夫支部長(文理18回)、丹野憲昭副支部長(文理17回)が退任、齋藤知行監事(文理15回)、渡辺将尚監事(人文25回)は留任、戸石健二副支部長(人文1回)が支部長に、佐藤政隆幹事(人文2回)と大岩敏男幹事(理4回)の両名が副支部長に選任された。

山形支部長 戸石健二 (人文1回)

仙台は「杜の都」である

仙台支部

仙台が杜の都と言われて久しい。しかしそれは単に緑が多いとか、街路樹が多いとかいうことではない。そこには四百年の歴史と、時代時代の人々の努力の跡が見られる。

今年、仙台では「第40回全国都市緑化仙台フェア」が開催され（平成元年に続き二回目）、関連記念イベントとして、「伊達政宗と杜の都仙台—仙台博物館の名品」展が開催された。（宮城県美術館）

さて、杜の都のルーツは、仙台藩初代藩主・伊達政宗が、慶長6年（1601）に仙台城と城下の建設に本格的に着手したところに始まる。



正宗公騎馬像（仙台城址）

まず正宗は、城下の家臣が住む武家屋敷には、広い土地を利用して食料ともなる果樹を中心とした樹木、燃料や建築材となる杉等の植樹を奨励した。

また、周辺の水田開発を進め、点在する農民屋敷にも同様植樹をさせた。（それは、現在でも「イグネ」として残っている。）

現在の仙台市は、明治時代以降、旧城下町を基礎として発展してきた歴史があり、市街や近郊の緑豊かな景観は、仙台城の御裏林であった青葉山（天然記念物）や、城下が形成されてきた武家屋敷跡、周辺の村落や江戸時代以来育まれてきた緑地を主として構成されてきたものである。このように、今の仙台の街の姿が「杜の都」と言われる所以は、藩主・正宗の町づくりへの構想と実行力があっての、歴史的遺産とも言えるのである。

仙台市は緑化運動が盛んである。市内には数十を越す「緑の活動ボランティア団体」が、公園緑化や植樹、環境整備に取り組んで成果を挙げているし、市役所には、「百年杜推進課」があって、ボランティア団体とともに、「未来の杜のまちづくり」に奔走している。

「仙台は住みよい街」と言われることの一つに、この緑の存在が、ひと役買っているものと思われる。

副会長兼事務局 宮城洋三（文理5回）

総会について

札幌支部

令和5年5月吉日
札幌円山動物園集合の御案内
札幌ふすま会会長 島田 良廣

例年より早い春の訪れですが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。未だにコロナウイルスへの注意は欠かせませんが、徐々に通常の生活に戻されている事と思います。さて、コロナ禍で中止を余儀なくされていた「ふすま会」もそろそろ目覚めたいと存じます。早速ですが、久し振りの総会を下記の要領で実施いたします。ご案内申し上げます。

記

- 1、日時 令和5年6月14日（水）10:40～11:30
- 2、場所 札幌円山動物園入口集合
- 3、バス 地下鉄円山公園駅3番出口～バスターミナル4番乗り場「円山」10:22発がお勧め
- 4、会費 総会の会費不要ですが、入場料は各自負担。（札幌市民の70歳以上は無料。年齢証明書必要）
- 5、その他 出欠の連絡は不要。お子さんやお客様の同伴、歓迎します。 以上

左の様な文面で郵送希望の道内ふすま同窓会110名に、案内しているところで

す。北海道各地のふすま会を、北海道ふすま会に統一する心積りですが、一堂に会する時間も場所もなく、難しい状況でした。

コロナ禍をいいことに後回ししていた「つけ」の始末をしなくてはなりません。

従来総会の様な堅苦しい集会をやめ、会費も徴収しない、行事毎集いを実施する緩やかな集合体にした方が、永続きするのではないかと思案中。今回とりあえず何名が関心を寄せるか、第一段階の実験です。

札幌支部長 島田良廣（文理15回）

やまがた街角スナップ

◇ 御殿堰 ◇

最上義光の後に山形城主になった鳥居忠政が、当時旅籠町を流れていた馬見ヶ崎川の流れを現在の流れに変える大工事をおおよそ400年前に行いました。そのとき、城のお堀の水源、城下町的生活用水、農村への農業用水の確保のため、馬見ヶ崎川の上流域に取水口となる五つの堰〔笹堰、御殿堰、八ヶ郷堰、宮町堰、双月堰〕が作られました。御殿堰は城のお堀を満たすために、城を目指し東から西へ七日町を横切って堀へと注いでいました。平成22年に水の町七日町御殿堰が整備されました。十一屋本店の建替えに合わせ、御殿堰を整備して、せせらぎを楽しみながら散策できるように生まれ変わるとのことです。今、町中は、デパートもなくなり、寂しい状況にあります。山形市中心街が以前のように賑わうことを願っています。

（H. O）



ふすまの日・ふすまの夕べ

令和元年度以来、3年ぶりとなる待望の「ふすまの日・ふすまの夕べ」が、令和4年10月21日(金)、山形市香澄町のホテルメトロポリタン山形において、多数の同窓生・関係者のご出席、ご協力のもと開催されました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、令和3年の「ふすま同窓会百年記念祭」については、残念ながら式典のみの開催となり、また、「ふすまの日・ふすまの夕べ」についても2年間中止しましたが、マスクの着用や手指の消毒、会場の換気など、感染対策に十分に配慮し、開催いたしました。

午後6時、築達秀尚幹事代表(人文19回)の挨拶で開会し、はじめに、お亡くなりになられた恩師及び会員の方々のご冥福を祈り、黙祷を捧げました。



野村一芳ふすま同窓会会長、奥山隆夫ふすま同窓会山形支部長の挨拶の後、山形大学の鈴木亨人文社会科学部副学部長、金井塚理学部副学部長から、大学の近況などを含めてご祝辞を賜りました。続いて、樋口浩朗校友会事務局長からご祝辞を頂戴し、さらに祝電が披露されました。

その後、お忙しい中ご出席いただきました長沼龍平ふすま同窓会顧問(文理8回)をはじめ、ふすま同窓会仙台支部の来賓の方々などの紹介が行われました。

そして、長沼顧問の音頭で声高らかに乾杯を行い、懇談に入りました。



会場が盛り上がり始めたころ、宍戸勇ふすま同窓会仙台支部長、山形大学模擬裁判実行委員会の佐々木裕紀委員長から挨拶をいただきました。



時間が経つにつれ、会場内では、久しぶりに会った同級生や先輩・後輩が時代や学部を超えて親睦を深める様子が見られ、懇談会は大いに盛り上がりました。

やがて、会も終盤となり、山高の全寮々歌「鳴呼乾坤」、山形大学学生歌「みどり樹に」を静聴し、出席者全員の心の中で力強く斉唱しました。

最後に、佐藤聡彦さん(人文19回)の音頭で万歳三唱を行い、会を締めくくりました。

当日は、懐かしい思い出に浸りながら、互いの近況や成長を共有し、同じ学び舎で青春時代を過ごした仲間として、世代を超えて同窓の絆を深めることができました。また、3年ぶりという間があったため、感慨深い再会がさらなる特別さを与えました。この会は、私自身にとって、貴重つながりを再確認し、新たな交流のきっかけとなりました。



「ふすまの日・ふすまの夕べ」の益々のご盛会を祈念申し上げますとともに、本会の開催にあたりまして、ご多忙の中、多大なるご協力をいただきました皆様に、この場をお借りして厚く御礼を申し上げ、報告とさせていただきます。

当番幹事 佐藤 憲(人文19回)

やまがた百名山「大岡山」奮登記

瀧井 潤 (人文2回)

山形県はその名の通り、県内何処に行っても山がある。深田久弥の日本百名山には鳥海山・朝日岳をはじめとして堂々六座が名を連ねている。まさに「山の県」そのものである。そんな山形県が自治体や県民等から募集し平成28年度に選定したのが『やまがた百名山』である。もちろん、日本百名山の六座も入っているが、その多くは、信仰や生業・食等を通じ里人たちの生活や文化と密接な関係を保ち、古より里人から愛されてきた存在である。まさに「ちょっとそこまで孫・子連れて」の感覚で、おにぎり水筒片手に出発し、低山ながらも只々最頂部を極めたという満足感に浸りながら麓の日帰り温泉に身を委ね、採ってきた幾許かの山菜をつまみに350mlの缶ビールを飲み干し幸せな一日を過ごす県民市民のなんと多いことか。



大岡山の全貌

そこで今回は、山形市の東北部に位置する楯山地区にある「大岡山」にアタックすることとした。ここは、地域の皆さんが「大岡山を愛する会」を組織し、登山道の整備や案内板の設置のほかガイドもしてくれるという。また、大岡山は昔から砥石を切り出した「砥石山」と隣接している。市民にとっては砥石山のほうが知名度が高い。全国的にも品質の良い砥石が採れたそう。楯山コミュニティセンターに車を置かせていただき、早速出発！コミセンを出てすぐの県道沿いに流れる清流「大川」の梅花藻を愛でながら登山口から登頂開始。

早速「愛する会」が掛けた案内板「登らぬ山はくたびれず、飲まぬ酒は酔いもせず」が出迎える。以後、かいた汗がすーっと引くようなダジャレ案内板がこれでもかと掛けてある。感心したりザワツとしたり白けたりで疲れを感じる暇もなく進む。砥石山の風穴エリアや松枯れ被害地の景観維持のため地元の皆さんで植えた桜の植樹エリアにはそれぞれ詳しい案内がある。

何年後かの花の山を想像しながら快調に、ゆっくり

と高度をかせいで行く。ところが、せっかく積み上げてきた高度を黄金山神社・石けん山方面へ下り始めた。

登山の途中に下るということは、それ以上に登る運命が待っているということだ。昭和3年建立の石碑がある今にも潰れそうな黄金山神社だ。その奥に石けん山なる場所がある。なんでも、その石に水をつけて擦ると泡立つことからこの名がついたそうだ。子供のころ遊んだそうだ。えっ!? こんな山ン中が遊び場だったの!? そうこうしてるうちに田んぼがある平地に着いてしまった。振出しに戻る。

今度は七曲りコースという登山道を改めて登り始めることとなった。このルートは、幾つかある登山コースのうち「フルコースのメニュー」だそうだ。フランス料理ならいいけど山登りのフルコースはねえ・・・と思う間もなく、文字通り七曲りの道に入ると急に斜度がきつくなった。急だから七曲りするんで当然の結果だ。七曲りをゼイゼイしながらクリア、峠に出たがここから大岡山本体に取り掛かる。今度は一曲がりもせずに急坂を一直線の直登！ここにきて大岡山が本性を現した。大岡山なんて、たかだか401m、チョロイもんよ。と見くびっていた私が悪うございました。黄金山神社を潰れそうだったからバチが当たったのか・・・などと後悔しながらゼイゼイとハアハアを激しく繰り返しながら登る。

途中何組かの下山者とすれ違うも顔を上げる余裕すらなく、ゼイゼイとハアハアの間に辛うじてコンチワを入れるのがやっと。この間幾つかの励ましの案内板もあったようだが、文章にできるような発見や観察などできるわけもなく、数十分後、ただただ山頂から望む遠く朝日連峰の山並みと眼下に広がる山形の街並みの美しさに感動した山旅でした。さて、この次は何処にしようかな!?



山頂よりの朝日連峰遠望

ふすまの そばの ライラック

初めまして。「ふすまのそばのライラック」の執筆担当、山形大学人文社会科学部2年の佐藤珠穂子です。このページは、私たち山大学生が普段どんな生活を送っているのか、同窓会の皆様方に紹介できるような内容がびっしり詰まっております。どうぞ最後まで、お付き合いください。

さて、まずは自己紹介といきましょうか。私は、東京都八王子市で生まれ、宮城県仙台市の高校を卒業しました。大学入学共通テストを経て、ここ山形大学にやってまいりました。もともと法律に興味があり、法律について研究したいと思っていたので、小白川キャンパスの人文社会科学部を志望しました。将来は司法書士になって自分の事務所を持つことを目標にしており、現在は総合法律コースに所属し、授業にサークルにと、充実した学生生活を送っています。私の所属するサークルは、「模擬裁判実行委員会」と、「ラジオサークルHBK」です。

続いて、今回の記事のダイジェストをお届けします！まずは、学校生活の話を、サークルの皆様にも手伝っていただいたアンケートをもとにお話いたします。そして、学校にある、生協や食堂についてのレビュー、ラジオサークルの紹介編集後記へとつなげます。

私だから作ることができる記事を目指して、「学校新聞」をイメージして作成した「ふすまのそばのライラック」。いよいよ始まりです！



小白川キャンパスに通っている学生は、普段どんな生活をしているのでしょうか。しかし、このキャンパスも、皆様から見れば大変様変わりしたことでしょう。そこで、現在、小白川に通っている学生のうち、数名からアンケートを取りました。その結果をもとに、少々私たちの生活を紐解こうと思います。回答者の出身地の多くが宮城県仙台市。中には福島県や秋田県の方、さらには遠く静岡県や香川県の方

まで。もちろん、お隣の新潟県、そして地元山形県出身の方も…。本当に様々な県から入学されているんですね。宮城県出身の方の中には、「仙台市在住で、高速バスや電車で通っている」という方もおりました。私もそうでした。1年生の夏まで、実家から通学していましたが、結局一人暮らしになったんです。

さて、アンケートでは「授業で大変なこと」について質問する項目がありました。これに関しては多くの回答があったので、ここで紹介いたします。

「パソコンの充電が持たない」

これは切実な悩みですね。我々の授業では、パソコンに授業資料が上がったり、パソコンでノートを取りながら受講したりと、何かと必需品のパソコンですが、充電が切れてしまうと、授業どころではありませんからね。課題の確認も難しいですし。たしかにスマホはありますが、小さくて読みにくいこと…

「後ろにいと先生の声が聞こえない時がある」

これは結構授業あるある。マイクを通していても、不調なのか聞こえにくい時があるんです。時には、とっても広い教室なのにもかかわらず、マイクを使わない先生も…後者の場合は、もちろん前に行けばいいだけの話ですが、前者に至っては、正直対応がわからなくて、時折学生を苦しめます。

やはりあとは、ラーメン屋の多さでしょう！キャンパスの周りには、多くのラーメン屋がありまして、どのお店もおいしい、と回答してくださった方もいました。日本一ラーメンの消費量が多い山形市をはじめ、山形県ではラーメンは特産品ですね！ここ小白川キャンパスでしか味わえないラーメンも。私もよく食べに行っています！ぜひ、ご賞味ください！



ここでは、私が所属するサークルについて、書こうと思います。私は先述した通り、模擬裁判実行委員会とラジオサークルHBKに所属しています。模

擬裁判については、皆様お聞きになったことがあるでしょうから、ここでは、ラジオサークルHBKの話をしようと思います！

ラジオサークルHBKは、30人部員がいます。主な活動内容はもちろん、ラジオの放送。大学内の行事では、音響についたり、BGMを流したりしていますが、なんといっても一番は、毎週日曜日に「カレッジパラダイス」という番組を生放送でお届けしていることです。このカレッジパラダイスは、部員3～5人が趣味や大学生活など、色々話したいことを話しているもので、ラジオモンスターにて「毎週日曜12:00～」放送中です。ぜひ検索してみてください。



もし山形市にお越しの際は、日曜のこの時間に、七日町の通りを歩いていれば、自然と聞こえてきますよ。

また、ラジオでの音量の調節や曲の選択、話す内容に至るまで、放送のバックヤードも覗けます。全て58分間の放送時間枠に納めなくてはなりません。さらに、自分で音響機材を動かすともなると、今度は「失敗してはいけない」という緊張感にかられます。しかし、何事もなく放送が終了したときの喜びはひとしお。頑張ってよかった、そう思えます。たとえ失敗しても、それも話のタネになる。そうやってお互いを支えています。



最後に、もう一度宣伝。HBKが生放送でお送りしている番組「カレッジパラダイス」は、毎週日曜日の正午から、ラジオモンスターで放送中です！

もう少し、私の自己アピールというか、趣味の話をしましょう。私は結構何でもする方で、楽器ならピアノをかれこれ16年、ヴァイオリンとドラムをかじったことがあり、ほかに占星術やら読書やらが続きます。占星術は教科書をみながら勉強中です。読書に関してはミステリー小説が好きですね。

ここでは、一人暮らしになってから始まった趣味、とでもいうべき料理について語ろうと思います。料

理は中学のころからやっていましたが、本格的に自炊を始めることになったのはもちろん、一年後期からの一人暮らしでした。だんだん楽しくなってきた、最近凝った料理にも挑戦したいと思っています。

そして、私は唯一無二のうどん好き。自炊のメニューは、「いかにうどんのスープを美味しく仕上げるか」を考えることが多かったです。しかし、だんだん物足りなくなってきました、から揚げ、油淋鶏、さらにはミルクシチューに餃子、ハンバーグと、幅が広がってきました。極めつけに、なんとアパートでパンを手打ちしたのです！酵母菌を起こすために生地を叩きつけるのですが、近所迷惑にならないかとハラハラしましたね…パンは人にあげたら、全部ぺろっと平らげてくれました。こうやって、自分の作ったものがすぐになくなって「おいしかった」といわれることが、一番うれしいですね。それに、自炊することで、自分の好きなものを、好きな時に、好きなだけ食べることができる。この上ない贅沢だと思います。

さて、これにて「ふすまのそばのライラック」終了です。私としては、なんとも反省点しかありません。もう少し記事考えられたんじゃないのかとか、もっと早く書けたらとか、体調管理すればよかったとか。なにせ、提出日に高熱を出して寝込んでしまったんです。やらかし大学生ですね。

一つだけ自信があるところといえば、タイトルでしょうか。「ライラック」は、リラとも呼ばれている花です。花言葉に「若者の無邪気さ」というものがあったため、我々山大生が「ふすまのそば」に「同窓会に入りたての」という意味を含めました。もし次があるのなら、校友会の話や模擬裁判実行委員会の話もたくさんできるといいですね。さらには、教授にインタビューなんかも…。とにかく、おつきあいいただき、本当にありがとうございました。



佐藤珠穂子（人文社会科学部2年）

学生・学部等への支援、協力事業

ふすま同窓会では、毎年、学生・学部支援、協力事業を行っております。
昨年度（令和4年度）の主な実施事業について紹介します。

第12回 安達峰一郎記念世界平和弁論大会

令和4年11月6日(日)に、山形大学小白川キャンパス基盤教育1号館122教室において、ふすま同窓会が後援し、「第12回安達峰一郎記念世界平和弁論大会」が開催された。全国より応募された原稿を審査し、予選を通過した中学生6名、高校生6名が弁論大会に臨んだ。最優秀賞には、中学生の部で、山形大学附属中学校1年の伊藤恭禾さん、高校生の部で沖縄県立具志川高等学校2年の又吉優衣さんが受賞した。

伊藤さんは「少しの光から」をテーマにして、アフガニスタンで医療活動に従事し、井戸や用水路の建設に取り組み農業支援に尽力をした中村医師について語った。又吉さんは、「他人を想う心」をテーマに、米軍基地を抱える沖縄の現況と向き合い、核兵器の持ち込みと平和への思いを論じた。



第50回 模擬裁判



第50回模擬裁判公演会が、12月9日、10日の2日間にわたり山形テルサホールにて開催された。

今回の公演で取り上げたテーマは「ヤングケアラ」で、脚本や演技に反映させたとのこと。また、裁判所や検察庁の協力をいただきながら、通常の刑事裁判とは異なる少年裁判を取り上げ、法や裁判と若者との関係性も描いたとのこと。毎回、新たなテーマへ挑戦していることに拍手を送るとともに、今後の活動にも期待したい。

第51回模擬裁判の公演は、今年12月1日(金)、2日(土)に山形テルサホールで実施される。

第34回 ティーデマン・ふすま賞授賞式

室で執り行われた。授賞式には、矢作清副学長、審査委員長の並河英紀理学部長、是川晴彦人文社会科学部長、野村一芳ふすま同窓会長のほか関係者が参加した。矢作清副学長より祝辞をいただき、野村同窓会長より、ティーデマン・ふすま賞が授与された。

令和4年度の受賞者は3名であった。人文社会科学部人文社会科学科卒業の川村葉々子さんは、宮城県中部に所在する東北地方最古の官衙遺跡とそれに伴う寺院跡からなるI期官衙について、研究テーマを「郡山遺跡の考古学的研究」—I期官衙の機能と周辺集落遺跡衛生の分析—として発表。理工学研究科博士前期課程1年の管佑真さんは、研究テーマを「IXPE衛星によるブラックホールスピンの観測可能性」として、ブラックホールの回転を引き出すための手法を確立させることを発表。理工学研究科博士前期課程終了の猿田周朔さんの研究テーマは「噴火模擬実験および数値流体力学に基づく火山岩塊の運動メカニズム」で、弾道軌道を描いて飛行する数cm～mの火山砕屑物である火山岩塊の運動メカニズムを、火山岩塊がガスの流れから受ける力を計測するなどして、解明に努めた。

授賞式後、受賞者による講演があった。



第34回(通算53回)ティーデマン・ふすま賞の授賞式が令和4年10月22日(土)理学部1号館1階12番講義

上記のほか、留学や八峰祭などの事業についても協賛・支援しております。特に昨年度は、理学部の新規事業、「山大サイエンス川柳」の支援も行いました。思わず、「ニタツ」、「あるある」、「うんうん」と共感できる学生の心情が17文字にしっかりと込められており、いずれも秀作ぞろいで、コロナ禍で沈滞ムードの中、久しぶりに元気をもらえる事業でした。

これからも、ふすま同窓会は、意義ある学生生活となるよう全力でバックアップしてまいります。

(S.A & H.O)

こちら「K O H O B U」！

松田 博之（文理13回地学）

私は事務局総務に入り、本格的に広報部になったのは平成18年度からで、今年で足掛け18年になります。

その間、会長は鈴木正孝、長沼龍平、野村一芳の三氏が交代され、事務局長は田宮良一、奥山隆夫、阿部慎一の三氏、書記は東谷みつ子、大沼美紀子さん。又、記念祭は3回（90、95、100年）開催され、実行委員長は其々奥山隆夫、戸石健二、高橋節の各氏です。

私の任期中で特に思い出に残るのは、会報紙面の「単色刷りからカラー刷り」更に「縦書きから横書きへの移行」、と体裁が大いに刷新されたことや、会費納入者名簿の新規掲載、会費納入者向けの「ふすま通信」の創刊、「ホームページ」の立ち上げ、百年記念祭の写真誌の資料収集・整理等があります。

現在、当会広報部の主な仕事は、毎年7月に発行している「同窓会報（20ページ）」、正月に発行の「ふすま通信（8ページ）」の企画・編集・印刷です。

その他にもホームページの運営、各種学生向けの支援事業や協賛事業の取材、PR等に取り組み、同窓会各支部や大学・校友会との連携に力を入れています。

会報については、卒業生が毎年約500名ほど増えますので、いかに楽しく読んで貰う事が出来るか苦心していますが、若い人ほど手ごたえが希薄で長年の課題です。そのような事を念頭に文字離れの年代にいかに同窓会に関心を向けてもらえればよいか、日夜、良き方策がないものかと奮闘しております。

— 感謝の仲間たち —



坂本由美子（理28回）

山形新聞社勤務。平成15（2003）年から広報部所属。田宮元事務局長がマスコミ関係者の部員が重要と考え懇請した。その結果、毎年の「総会」「ふすまの夕べ」や、各種記念行事で取材のうえ、山形の記事掲載に力を発揮している。令和5（2023）年2月から東京支社勤務になったが本会を担当して貰う。



太田 裕士（理1回）

平成29（2017）年度から広報部に入り、現在に至る。現職時は日大山形高の教諭で、健脚を生かして山岳部の顧問を務め、県内外の山々を多く踏破している。広報部においても温厚にして着実な着想をもって、会報や通信の編集その他にあたっている。令和4年度より広報部長に就任。



松田 明子（人文15回）

令和4（2022）年度からの新人で、山形県に在職時は広報室長を経験し、退職前は部長職を務めている。最近はカメラに取り組み始めたそうで、新たな視点で広報部を盛り上げて貰いたいと期待している。



片岡 卓爾（理5回）

兵庫県出身、山形県職員当時の平成14（2002）年頃より広報部に所属し、事務局のパソコン機器関係の整備に尽力した。現在もホームページ運営を担当して、当会の最新の情報の発信に貢献をしている。



渡辺 雄二（理14回）

令和3年3月まで、山形県立産業技術短期大学の教授を長く勤め、定年後も同大校に在籍して、専門教育を担っている。平成19（2007）年に運用を始めた当会のホームページ立ち上げの功労者である。当時の事務局内では専門知識を持つものが少なく、大変重宝なスタッフであり、その後も、IT事項の相談が有る度、頼りになる存在である。



松田 博之（文理13回）

平成18（2006）年4月、田宮良一元事務局長に誘われ正式に事務局員として通い始め、広報部には足掛け18年間お世話になりました。その間の出来事は、前項で述べている通りで、1昨年度、百年記念祭も無事終了したのを機に、広報部長を辞し別の形で同窓会を応援して行きたいと考えている。

「ふすま文庫」 令和4年6月～令和5年5月

令和4 9.2 図書館魔女の蔵書票…………… 大島真理(野村一芳寄贈)

各学部の退職教員

- ・ 人文社会科学部人間文化コース
山崎 彰教授 (令和 5.3.31)
- ・ 人文社会科学部グローバル・スタディーズコース
福山 泰男教授 (令和 5.3.31)
富田かおる教授 (令和 5.3.31)
- ・ 人文社会科学部総合法律コース
荒井 太郎教授 (令和 5.3.31)

深 悼

心からご冥福をお祈り申し上げます
(令和5年5月31日まで受付分)

山高19回理乙	飯島 俊夫	04.03.19	山高28回理科	松崎 廣近	02.10.14	文理8回・文・経済	榎本 和正	04.09.01
山高20回文甲	富田秀一郎	05.03.11	山高28回理科	森田 郁男	04.03.27	文理9回・文・経済	矢野 満	04.08.11
山高22回文乙	杉本 昌夫	01.06.09	山高28回理科	津川 光一	04.05.11	文理11回・理・化学	山口 英樹	04.06.26
山高22回理甲	国井 大蔵	30.07.17	山高29回理①	小関 國夫	05.01.29	文理12回・文・経済	海和 秀雄	05.02.21
山高24回理甲	宮原 茂悦	04.10.12	山高29回理③	小笠原文男	04.08	文理12回・理・物理	庄司 文啓	04.08
山高24回理甲	加瀬 実	04.01.05	山高29回理③	土井 共成	04.10.26	文理15回・文・法律	佐藤 克巳	04.11.17
山高24回理甲	嶋田 駿作	04.06.15	文理1回・文・哲学	小宮山昭一	03.09.08	文理16回・文・国文	小野 勝美	03.08.13
山高25回文甲	佐々木 満	04.04.07	文理1回・文・法律	大泉 喜八	04.04.10	文理17回・文・経済	日下 尚武	04.06.26
山高25回理乙	定方 正一	04.05.24	文理2回・文・国文	齋藤すみ子	04.07.24	人文2史学	日下 龍生	04.10.08
山高26回文乙	古川 謹吾	03.12.09	文理3回・文・英文	坏 智子	03.11.06	人文4哲学	高橋 靖雄	04.06.10
山高26回理甲	鈴木 光男	04.11.02	文理3回・理・物理	林 満	04.11.25	理2化学	向井 博之	04.04.29
山高26回理甲	種市 宏	04	文理5回・文・国文	小松田 毅	03.01.26	理2物理	清野 千秋	03.12.18
山高26回理甲	石塚 好之	04.06.23	文理5回・文・経済	齋藤 好夫	03.10.23	理3物理	山田 秀一	02
山高27回文乙	色摩 力夫	04.11.24	文理5回・文・経済	高橋 顕士	03.06.29	理6物理	八巻富士男	03.07.29
山高27回理科	伊藤 正	04.04.07	文理5回・理・数学	平向 温美	04.10.15	理10物理	池田 史明	02.05.20
山高27回理科	伊藤 博	04.07.18	文理6回・文・歴史	石塚 満	02.10.31	理16化学	中野 哲	04.10.02
山高27回理科	鈴木 禮吉	05.01.15	文理7回・文・英文	越前 昭男	04.11.15	理18物理	佐藤 浩	04.09.20
山高28回文甲	根本 芳夫	04.02.28	文理8回・文・経済	山口 睦美	04.01.30			
山高28回文甲	斎藤 清	30.06.08	文理8回・文・経済	泉 四郎	05.05.25		以上	55名

令和5年・6年度ふすま同窓会役員

【顧問】

文理1 鈴木 正孝
文理8 長沼 龍平
人文1 野村 一芳
人文社会科学部長 是川 晴彦
理学部長 並河 英紀

【会長・副会長】

会長 人文2 高橋 節
副会長 文理15 穴戸 勇
副会長 文理17 横井 洋子
副会長 人文1 笹谷 仁則
副会長 人文1 戸石 健二
副会長 理1 遠藤 直幸
副会長 理1 太田 裕士
副会長 理1 大岩 敏男
副会長 人文6 佐藤 護
副会長 人文9 大宮 富善
副会長 人文12 岩田 雅史

【支部長】

札幌 文理15文 島田 良廣
函館 山高27 鈴木 功
仙台 文理15理 穴戸 勇
山形 人文1 戸石 健二
東京 人文1 笹谷 仁則
北陸 文理18理 松田 博男
関西 文理14文 里村 義征

【常任理事】

文理2 高橋 勲
文理3 佐川 茂
文理8 齋藤 正彦
文理9 大瀧 保
文理10 田宮 良一
文理13 松田 博之
文理17 安彦 宏人
文理17 丹野 憲昭
文理18 奥山 隆夫
文理18 渡邊 恭一
人文1 伊藤 憲昭
人文1 細谷 孝司
人文2 佐藤 政隆
人文3 高橋 邦芳
人文3 舟岡 正利
人文4 阿部 慎一
人文5 安達 正司
人文7 渡辺 季子
人文11 石山 健一
人文12 荒木 歩
人文13 丹野 仁敬
人文14 江袋 一宏
人文15 土田 郁子
人文23 樋口 浩朗
人文25 渡邊 将尚
人文42 小野 仁
理2 佐藤 圓治
理2 長谷川俊一
理5 片岡 卓爾
理16 高橋 信一

理21 岩田 尚能
人文社会科学部副学部長 鈴木 享
理学部副学部長 金井塚勝彦

【理事】

山高29 加藤 隆
山高29 篠田 昭男
山高29 深瀬長太郎
文理2文 秋保 慎一
文理2理 加藤 啓
文理5文 小家 盛男
文理6文 井場 道夫
文理7文 栗原 信雄
文理8文 田中 克
文理8文 長谷部 滋
文理8理 奈良岡 勉
文理9理 植松 芳平
文理10文 加藤 正信
文理11文 越後 壽一
文理11文 沼澤 誠
文理12文 岩田 充巨
文理13理 中谷 勇
文理14文 田鎖 光雄
文理14理 加藤 幸一
文理15文 石沢 光博
文理15文 伊藤 貢士
文理16文 佐々木 司
文理17文 歌丸 一夫
文理17理 渋谷 雄司
文理18文 水戸 武雄
人文1 坪沼 健行
人文1 蜂谷 哲平
人文1 三浦 繁則
人文2 菅野すみ子
人文4 山内 励
人文6 武田 米男
人文7 菅野 隆
人文7 小林 正宣
人文8 金山 均
人文8 佐藤 美夫
人文9 奥山 康夫
人文10 尾崎 秀真
人文11 佐藤 順一
人文12 奥山 文夫
人文12 河田 勤
人文13 後藤 英人
人文14 浅田 秀行
人文14 小林 誠
人文15 泉 洋之
人文15 小林 一三
人文15 松田 明子
人文16 伊藤 浩之
人文16 笹原 由之
人文17 堀越 浩
人文17 渡辺 亘
人文17 岡部 信幸
人文18 長岡 篤志
人文19 築達 秀尚
人文19 佐藤 俊彦
人文20 古頭 哲

人文21 青木 秀之
人文22 浅井 幹太
人文22 三澤 直樹
人文23 高橋 大
人文24 菅原貴久磨
人文24 三浦 貴子
人文25 伊藤 悦子
人文25 村山 直也
人文26 石垣 慶子
人文26 伊藤 和也
人文27 笹原 淳一
人文27 山口 吉昭
人文28 小林 一善
人文28 田中 稔泰
人文29 津島 晶
人文30 安達 孝祥
人文30 阿部 弘
人文31 太田 真也
人文31 細谷 祐紀
人文33 及川 鉄平
人文33 高橋 直之
人文35 国分 裕基
人文35 布施木哲哉
人文36 大滝 友美
人文37 堀 竜也
人文38 小松 昌弘
人文39 佐々木 優
人文39 西塚 晋
人文40 小島 憂也
人文42 豊田 龍平
人文44 奥山 大倫
人文44 三浦 結衣
人文45 神保 正輝
人文45 本間 知美
人文46 伊藤 亜子
人文46 鈴木 利規
人文47 福島 有沙
人文47 吉田 啓司
人文49 黒沼 健朗
人文49 佐藤 亮太
人文50 石橋 佳尚
人文50 高橋 夏海
人文50 菅原悠太郎
人社1 原田 沙希
人社1 村山 真菜
人社2 工藤 和樹
人社2 長澤 遼紀
人社3 加藤ひなた
人社3 大泉 眞哉
理1 永沼 洋美
理3 海老名陽一
理4 鈴木 隆一
理6 沼澤 喜一
理7 多田 幸二
理8 丸山 俊明
理8 宗田 一彦
理9 相澤 栄司
理11 設案 孝
理11 鈴木 秀悦
理12 土屋 淳一

理14 後藤 秀之
理14 辻 浩子
理17 細野 敏明
理17 鎌水いずみ
理18 岡村 和恵
理19 大野 寛
理20 草苅 俊矢
理21 齊藤 健二
理22 鈴木 崇人
理22 野村 和泉
理23 澤 昭匡
理23 鈴木 信康
理25 鷹野 哲也
理26 佐々木 僚
理26 千歳 雄弘
理27 田中 恵子
理27 富沢 一浩
理29 神保 晃子
理31 香曾我部寛
理31 山科 寛
理32 中村 隆人
理33 菊地 洋介
理34 豊田 匡曜
理37 青木 遙
理37 菅野 綾
理38 伊藤 寛人
理40 高橋 正仁
理41 小関 聡恵
理41 五十公野裕也
理42 伊藤千絵美
理47 小西 亜希
理48 小野寺 玲
理48 藤澤 一积
理49 市川 美咲
理49 長澤 建志
理50 石山 典宏
理50 鈴木 萌玖
理51 藤田マリン
理51 大毛 瑞貴
理52 庄司絵利加
理53 館林 融

【監事】

文理15 齋藤 知行
人文1 尾形 孝一

【事務局】

事務局長 人文4 阿部 慎一
総務 人文7 小林 正宜
書記 大沼美紀子
広報 理1 太田 裕士
広報 人文15 松田 明子
広報 理5 片岡 卓爾
広報 理15 渡辺 雄二
広報 理28 坂本由美子
事業 人文7 小林 正宜
事業 人文10 尾崎 秀真

本部事務局通信

ふすま同窓会員の皆さん、「シラピー」ということばをご存じでしょうか？

何を隠そう、「シラピー」は『人』です。そして『落語家』です。それも、何とふすま同窓会の会員（人文45回）でもあります。その人こそ、「立川志らびー」、本名片桐悠吾さんです。山形大学在学中に落語に目覚め、立川談志の毒舌でかつダイナミックな落語に感動し、立川流落語家になることを決意したと聞いています。そして卒業後は、立川志らく師匠に弟子入りし、努力すること7年、遂に本年1月、二つ目に昇進したのであります。おめでとう!!

同じ同窓生で、講談師、宝井琴柑さん（本名 綿貫麦、人文学部34回）が、平成30年に真打ち昇進し、五代目宝井琴鶴を襲名したことに続く朗報であります。「志らびー」という芸名は、志らく師匠が、あの珍獣『オカビ』に似ているからと名付けたそうです。本年5月27日

には、山形市内（遊学館）で、志らく師匠とともに、二つ目昇進落語会が開催されました。この新たな一步の踏み出しは、みんなにワクワク感と元気を与えるビッグなニュースとなっております。まだまだ知名度は低いとはいえ、会場いっぱいの観客（応援・支援者）が、一丸となって、早期の真打ち昇進を願い熱いエールを送りました。そして大きな笑いと拍手に包まれた楽しいひと時となりました。がんばれ!「オカビー」、否「志らびー」。今後益々のご活躍を、心より祈っております。

さて、いよいよ待望のコロナ明けです。これまでストップせざるを得なかった各種事業・行事も、これからはいつも通りの執行が可能となります。手続き、段取りなど記憶も薄くなっておりませんが、前を向いて会員の皆様と共に元気な同窓会を目指し、交流の場づくりなど積極的に行っていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いします。

会員の皆様のご健勝を心よりご祈念申し上げます。

事務局長 阿部慎一（人文4回）

広報部員のつぶやき

会社の人事異動でこの春から東京都内で勤務している。山形県内では各地に転勤したことがあったが、県外暮らしは半世紀ほどの人生で初。しかも大都会とあって戸惑うことばかりだ。東京は人も情報も文化も食も、あらゆるものが集まり、「何でもある」といえる地域だろう。しかし、これだけ人工物に囲まれて暮らすのに、違和感は拭えない。先日、帰郷する機会があった。山並みを見た瞬間、心からほっとする自分がいた。ビルの合間で控えめに咲く東京の桜と違い、馬見ヶ崎沿いの桜は生命力にあふれていた。季節感のある食も素晴らしい。わが故郷がいかに豊かな地域であるか、今、痛感している。

坂本由美子（理28回）

最近のAIの進化には目を見張るものがある。将棋界における藤井聡太棋士の登場と破竹の勢いの活躍でAIが大きな注目を集める事となった。そして今、ChatGTPの登場がAIを誰でもが使える存在に変えつつある。

また、自動車の自動運転やドローンによる物流など身近な社会で益々利便性を提供することになりつつあり、社会を大きく変えようとしている。しかし大学での論文作成や行政における使用などの課題や問題点も提起されており、今後、人類の幸福の為にAIを如何に役立てて行くかが問われている。

片岡卓爾（理5回）

生来の怠け者ゆえ、長年積読になっていた「フーリエの冒険」という本を、必要に迫られ一ヶ月ぐらいかけて読んでみた。「波」に関する数学の本である。意外なことに、数学を専門的に勉強したことがない私の頭にもすんなり入ってくる。なぜか？

それは、通常の専門書では1ページもかからないところを、この本では何ページも割いて丁寧に説明してくれているからである。この本は日本で出版されたものだが、アメリカでは元来このような傾向が強いようである。

渡辺雄二（理14回）

同窓会の事務局に通い始めると、大学正門に続く銀杏並木が学生時の空気感そのままにありました。また、久々に蔵王へ登ると、お釜は変わらず雄大で神秘的、こまさは可憐で、地蔵尊はなお堂々と鎮座しておられました。そのような中、樹木の枯死する姿に地球温暖化への焦りのようなものを感じました。

同窓会名に由来するチョウカイフスマは、厳しい環境の中でも明るく群落することで知られます。コロナ禍の様々な困難を乗り越えた学生の皆さんの希望あるキャンパスライフと、豊かで美しい山形の持続を願って、今年はチョウカイフスマに会いに行きたいと思っています。

松田明子（人文15回）

編集後記

第71号をお届けいたします。今回の役員改選に伴い、松田博之さんに代わり松田明子さん（人文15回）が広報担当に加わるようになりました。よろしくお願いいたします。なお、会員の皆様方ご寄稿お願い致します。

太田裕士（理1回）



同窓 HP



同窓 FB

ふすま同窓会報 第71号

発行者／ふすま同窓会 山形市東原町1-9-4

電話・FAX／023-633-9927

<http://www4.plala.or.jp/fusuma/>

E-mail:fusumadosokai@yahoo.co.jp

発行日／令和5年7月1日

印刷所／坂部印刷株式会社